



アオノリュウゼツラン

5年ぶりに咲いた！



花の谷 2018年7月23日撮影



↑ 黄色いフサフサのお花

↓ 下から順番に開花



淡路島国営明石海峡公園では今、数十年の生涯の最後に一度だけ咲く花“アオノリュウゼツラン（青の竜舌蘭）”が開花しました！

園内では5年ぶりの開花で、お花は8月上旬頃までご覧いただけます。

5月中旬から花茎を伸ばしはじめた2株が8mのツインタワーのように成長し、花の谷でその存在感を放っています。

アオノリュウゼツランのお花は下から順番に咲いていき、咲き終わると根元に小さな子株を残して親株は枯死するというドラマチックな植物です。

淡路島国営明石海峡公園の「アオノリュウゼツラン」を是非ご紹介くださいますようお願いいたします。

お問い合わせ先

明石海峡公園管理センター 佐藤・瀧本

TEL: 0799-72-2000 FAX: 0799-72-2100

ホームページ: <http://www.awaji-kaikyopark.jp/> 最新情報は“明石海峡公園”で検索。

この資料や画像はメールでお送りできますのでお問い合わせください。

メキシコ原産。リュウゼツラン科リュウゼツラン属の常緑多年生多肉植物。

★ アオハユウゼツラン 3つのヒミツ ★

その① なまえの ヒミツ

- リュウゼツラン**…葉を竜の舌にたとえて“竜舌蘭”と書きます。近くで見ていると「竜の舌こんな感じかも」と思うような葉の形。
- アオノ(青の)**…日本に先に入ってきた斑入りの「リュウゼツラン」に対して、斑のない緑のものなので“アオノ(青の)”がつけられたそう。⇒「アオノ」+「リュウゼツラン」=「アオノリュウゼツラン」なるほど～
- 中国名では**万年蘭**、英語では**センチュリープラント(百年植物)**…成長がゆっくりなので「100年に一度咲く」という誤認識からこう呼ばれていますが、実際は、熱帯地域では10～20年、温帯地域では30～50年で花が咲きます。

その② 葉っぱの ヒミツ

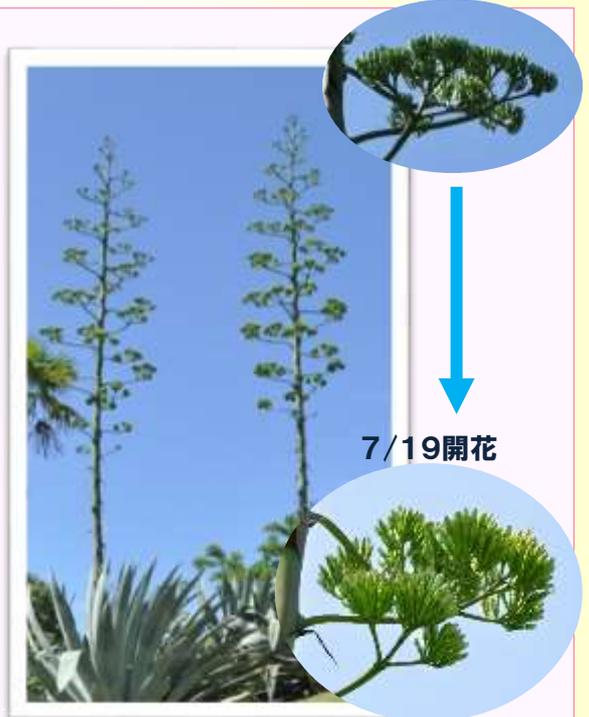


- 巨大アロエみたいな葉は、幅20cm・長さ1-2mほど、1株に約20-30枚あります。
- 縁はやや波状でトゲがあります。葉の先もとがっていてさわると痛いっ！近づくときは要注意。
- 最初は指でつまめるほどの小さいサイズですが、葉も株もゆっくり時間をかけて成長し、一枚の葉っぱの横幅が手のひらより大きいくらいになります。(写真は、それぞれ別の株です。)

その③ 成長の ヒミツ

枝わかれ

つぼみ



5/31(約4メートル)

花茎発見！まるで巨大アスパラ。

6/7(約5メートル)

どんどん成長。枝分かれ発見！

7/9(約8メートル)

蕾もついてもうすぐ咲きそう！

⇒そして花が
咲き終わったら…

一度咲いた後は、枯れてしまいます。

このとき、根元に小さな株を残します。一度で枯れてしまうなんて、さみしい気はしますが、小さな株たちがしっかり育っていますよ♪
～親株から子株へ“いのち”のリレー～